

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立島小学校

校長名 野原 美登里

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめのない学校づくりに向け組織的に取り組み、生命を尊重する精神を育てる。 ・児童が自ら決定し自己有用感を味わえるような機会を増やし、将来にわたって生きる力を育む。 ・国際社会に生きるため、英語に慣れ親しみ積極的に使おうとする態度を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の情報共有と児童が声を発しやすい環境づくりに努め、問題行動の早期発見と迅速な対応に努めることができた。 ・『学び合い』学習の推進に全校で取り組み、授業の中で、一人ひとりが主体となって活躍できる場面を増やすことで自己有用感を持たせることができた。 ・ALTの働きかけや海外からの体験入学者との交流の中で外国の文化に興味を持つ児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に安定してきたような気がする。教室から飛び出している児童もいないし、一時のことを考えたら安定している。 ・もう少し英語に力を入れている雰囲気(掲示物など)を出せるとよい。 ・学び合いについては全クラスではないが、楽しくグループで活動している姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題は依然として存在し、いじめにつながる課題も多い。さらに早期発見と対応に努める必要がある。連絡を密にし迅速に情報を共有して問題が大きくなる前に解決する。 ・また「心の教育」を推進し、思いやりのある人間関係を築くことに努める。 ・英語を楽しく学ぶ環境を整える。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域と連携し、児童の健全な発達と安全な生活を見守る。 ・中学校区で連絡を取りながらあいさつ運動、ボランティア活動の推進など足並みをそろえ協力し合う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会によるあいさつ運動が活発になり、児童も挨拶に自信を持ち声も大きくなってきた。 ・本年度から運動会、枝豆販売など、地域と関わることでできるイベントを復活させることができた。 ・学校の運動会、地域の行事に中学生が積極的に手伝いに来てくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事「防災訓練」、「市民体育祭」、「ごみゼロ運動」、「クリーンシティ」などの参加者が年々減少している。教員の働き方改革とCSのバランス、また、保護者、PTA、見守り隊、学校支援推進委員などの連携に課題があり、この連携がスムーズにできるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会の活動を活性化させ、児童が主体となってあいさつ運動を広げる。中学校区でも連携したい。 ・枝豆販売を改善し、児童が中心となって全校で取り組むことで、地域に誇りを持つ心情を育てる。 ・保護者、PTA、見守り隊、学校支援推進委員などの連携を強化する。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽にコミュニケーションが取れる職場の雰囲気醸成し、いつも笑顔で前向きな職員集団を目指す。 ・情報の共有ではICTの活用や、顔を合わせての打ち合わせ等を大切に、共通の課題に全職員で向かえるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着きのない児童を受け持つ担任の苦勞に寄り添い、協力して課題に取り組むことで、職員の結束が強まり、信頼関係を築くことができた。 ・日頃のコミュニケーションを大切にし、親睦レクリエーションを行ったりすることで、打ち解けた雰囲気生まれ、風通しの良い職場に近づいている。 ・メール回覧をデジタル化することで、迅速な情報共有が可能になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室へ訪問すると、教諭から挨拶をしてくれる。児童も挨拶してくれて、気持ちの良い雰囲気づくりが出来ている。 ・今年は大型テレビがどの教室にも入り、後ろの席からでも見やすそうだ。児童にとって設備が充実するのはよい。タブレットや大型テレビの導入は時代を感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が顔を合わせて話し合うなど、直接言葉を交わすアナログな交流も大切にし、気軽にコミュニケーションが取れる職場の雰囲気を作る。 ・職員数が多いため、情報共有に課題があるが、ICTを活用して共通意識を持ち、問題解決に取り組む。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全、熱中症対策、感染症対策、交通安全等について家庭、地域との連携を密にして取り組むと共に、緊急時の教職員の共通理解、共通行動を徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中休み、昼休みでの外遊び奨励により、健康な体作りに取り組むことができた。縄跳びチャレンジなど体育的な行事も増やし健康づくりに努めることができた。 ・「命を守る訓練」の実施などでいざとなった時の避難について体験的に学ぶことができた。告知せずに行うなど内容を工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見守り隊」「青色パトロール」「防犯カメラ」などはよいが、「通学路安全対策ワークショップ」の結果について進捗状況が報告されていない。さらにPTAと自治会等の情報交換ができるとよい。「安心・安全」な活動を学校やボランティアに頼りすぎている。 ・「食の安全」「熱中症」「感染症」「交通安全」については絶えずあらゆる場面で教えて行くのが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が必要を感じて「命を守る訓練」に参加する姿を目指し、内容も工夫してより実践的なものにする。地域の防災訓練に参加を促し地域住民との連携を深める。 ・夏場には熱中症対策として水分補給の重要性を強調するなど、「食の安全」「熱中症」「感染症」「交通安全」については、常にあらゆる場面で指導していく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや大型テレビを活用し、授業の中で「学び合い」を進める。 ・家庭との連携や職員の効率的な働き方などで教育DXを推進する。 ・学校施設の定期点検を確実に実施し、適切な対処(修理・修繕等)を迅速に行い、安全な環境を整備する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの先生がロイノートを活用した授業実践ができるようになった。児童もロイノートを使いこなし、デジタルとアナログ両方の良さを生かした活用ができている。 ・今年度はトイレの改修が入り、少しでも気持ちよく生活できる環境が整ってきた。また、細々した不便だという声に迅速に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年もタブレットを上手に活用している。 ・大型テレビも導入されより便利になっている。スマート連絡帳も有効に活用されていると聞く。 ・教員の駐車スペースがなく、グラウンドの駐車スペースはあり得ないと思う。早急な安全対策を講ずるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの職員がICTを使いこなせるようになってきたが、さらに研修や工夫を重ね、教育DX化を推進する。『学び合い』学習と絡めながら、個別最適な学習を進めていくための具体的な方法を模索する。 ・学校の危険箇所や、トイレなど修繕が必要な箇所は、速やかに改善できるように働きかける。

HPアドレス: <http://gifu-city.schoolcms.net/shima-e/>